

1 派遣期間 平成28年11月11日(金)

2 研修先 所沢市民文化センターミュージズ

所在地 〒359-0042 埼玉県所沢市並木1-9-1

3 研修内容

第58回関東音楽教育研究会埼玉大会

大会主題「伝わる音楽」 ～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～

(1) 大会主題の趣旨

① 「伝わる音楽」

音楽の様々な特性から音楽のよさや美しさを互いに感じ取り合う「音楽の共有」が学習過程において十分になされないままに授業が展開されることを課題ととらえた。本大会では、協働的な学びを重視し、児童生徒同士、教師と児童生徒が音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合うことを「伝わる音楽」とした。

② 音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して

音楽を共有し、音楽を多角的に捉えたり、自分の感じたことを改めて捉え直したりする中で、児童生徒の音楽に対する感性は豊かになる。感性を豊かにする学びは、明確な思いや意図をもって音楽表現を追求したり、音楽のよさや魅力をより味わって聴いたりすることにつながる。音楽活動から感得した音楽の価値を明らかにしたり、再認識したりすることを通して、本大会では次の児童生徒の姿を目指した。

- ・思いや意図をもって音楽表現を工夫し、新たな価値を見いだすことができる児童生徒
- ・音楽のよさや美しさを味わい、自分にとっての新たな価値を見いだすことができる児童生徒

(2) 研究の視点

① 視点1 音楽科における思考力・判断力・表現力を育む

〈思考力・判断力〉

- ・音楽を形づくっている要素の働きなどを知覚・感受し試行錯誤しながら音楽表現を工夫する力
- ・曲想を感じ取り、音や音楽に対する自己のイメージを膨らませて、どのように音楽表現で表すかについて思いや意図を見いだす力
- ・自分や他者の音楽表現について音楽を形づくっている要素の働きなどを知覚・感受し評価する力
- ・音楽のよさや美しさを味わい、自分にとっての価値を見いだす力

〈表現力〉

- ・思考・判断していることについて言葉など（発言、記述などの言語活動を中心としながらも、必要に応じて音、楽譜、身体なども含めて）で表す力

② 視点2 表現領域と鑑賞領域の関連を図る

題材の中で表現領域のみ、鑑賞領域のみの指導計画が多い、あるいは表現領域と鑑賞領域の内容があってもその関連が十分に図られていないことがあげられる。「伝わる音楽」の内容を深めるためにも表現領域と鑑賞領域の関連を図ることは効果的であると考えた。

(3) 実際の授業の様子

今回は、埼玉県吉身町立吉見中学校の中学1年の授業参観をした。
「曲の構成を感じ取り、アルトリコーダーで表現の仕方を工夫しよう」
本題材では、ルネサンス音楽（スザート舞曲集による「モール人の踊り」）を器楽と鑑賞を関連付けて扱った。器楽合奏を通して、曲の構成を感じ取りながら、音楽表現を工夫する力を身につけるようにした。

① 導入について

最初に、スタッカート、テヌート、ノンレガート奏法で音階練習をして基本的な奏法や運指の確認しながら演奏した。その後で、曲の構成によってアーティキュレーションの付け方の違いがあることに気づかせたり、アーティキュレーションの違う演奏を聴き比べて、曲想が変化することを感じ取らせたりした。そのため、生徒はアーティキュレーションを工夫すると、音楽表現が豊かになるということをさらに実感することができた。

② 展開について

音色、旋律、構成を知覚・感受し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、どうすれば表現したいイメージを表現できるか考え、ふさわしいアーティキュレーションを工夫して演奏していた。5分間個人でアーティキュレーションを考え、4人グループで実際に音を出し、思考錯誤しながら楽譜に記入した。ただし、活動する前に4つの注意することを掲示した。

- ア AとBの表現したいイメージをもつこと
- イ 4小節だけ作ること
- ウ 音で確認してから楽譜に記入すること
- エ 上のパートと下のパートのアーティキュレーションはそろえること

グループは意図的に組まれており、リーダーを中心にグループ活動が行われた。話し合いをしながら、意欲的に取り組む生徒が多く、ほとんどのグループがテヌートやスタッカート、スラーを組み合わせ、アーティキュレーションを工夫することができていた。しかし、グループでの話し合いの時に、演奏のし易さを優先して選んだり、独りの意見に決まったりするなど、意見のすり合わせの仕方に課題が見られた。

③ まとめについて

他のグループの演奏を聴いて、良いところを聴き取り、自分たちのグループでさらに工夫できるところを話し合った。また、ルネサンス音楽を最後に鑑賞することで、表現と鑑賞の関連を図った。生徒は、ルネサンス音楽について、「当時は、アーティキュレーションは自分の思いでつけられていた」ということを知り、各自のイメージを広げるとともに、活動への意欲を喚起することにつながった。

4 感想

指導のねらいを明確にして、生徒が1時間の授業で何を学ぶのかが分かることが重要だと改めて感じた。学習課題の提示を工夫することで生徒の意欲をさらに高めていくことができると実感した。また、ICTを効果的に活用し、学習の流れやポイント、発問などがスクリーンで映し出してあり、生徒は次に何をやるか見通しをもって授業に臨むことができていた。板書と上手く組み合わせ、学習内容の理解をより深めていけるように今後の授業でICTの活用を積極的にしていきたい。